



## 新・包装関連研究「海外の動き」第8回

### The 30th IAPRI Member Conference

### 2021 Virtual

### (第30回・国際包装研究機関連盟

### メンバー会議 2021 バーチャル) 参加報告

農研機構 食品研究部門 食品流通・安全研究領域  
流通技術・新用途開発グループ 上級研究員 北澤 裕明

#### 1. はじめに

The 30th IAPRI Member Conference 2021 Virtual (第30回・国際包装研究機関連盟メンバー会議バーチャル)が、2021年6月14日から17日にかけてアメリカ合衆国ミシガン州イースト・ランシング市からオンラインで開催されました。今回は自身の発表はありませんでしたが、昨年より IAPRI のボード・メンバーを務めていることもあり、この会議に参加しましたので、その概要について簡単に紹介したいと思います。

#### 2. IAPRI とは

IAPRI は、International Association of Packaging Research Institutes の略で、その名が示す通り、包装に関する研究に携わる研究機関、大学および企業が交流を図ることを目的として1971年に設立された国際的な団体です。現在、29か国から90の機関等が会員となっております。IAPRI 自体は学術雑誌を有していませんが、包装研究を専門に扱う国際誌である *Packaging Technology and Science* とは密接な関係があり\*、実質的に包装研究に関する国際学会とみなして差し支えありません。

IAPRI では、参加・研究発表を会員に限定したシンポジウムと、会員に限定しないカンファレンスを一年おきに交互に開催しております。昨年はカンファレンスの年で、メキシコのモントレレーで開催される予定でしたが、コロナ禍のため急遽、オンラインでの開催となりました。今年も早々にオンラインで開催されることが決定され、本来、会議名に‘シ

\*IAPRI が主催する会議では、発表申し込み時に通常のエントリーと論文査読付きエントリーのどちらかを選択することができる。後者を選択し論文が査読を通れば、会議での研究発表に加え、*Packaging Technology and Science* 誌に論文が掲載される。

ンポジウム’が入るところ‘メンバー・カンファレンス’となった次第です。ちなみに実際に会場で開催されるとすれば、場所はインドのムンバイとなるはずでした。

### 3. バーチャル（オンライン）大会

今回の会議は、‘Whova’を活用して開催されました。Whovaは、バーチャルでの学会大会のようなイベントの開催と参加者同士のコミュニケーションを支援するプラットフォームです。私の場合、最初にWeb上のダッシュボードから参加登録をした上で、スマートフォンに専用アプリをダウンロードしました。これにより、ブラウザとスマートフォンのアプリ（写真）の双方からプログラムの閲覧や発表要旨のダウンロード、発表の視聴を行うことができました。また、視聴したい発表を予め登録しておけば、発表時間が近づくと知らせてくれる機能、質問事項を予め書き込める機能の他、参加者同士が交流を図るための自己紹介用フォームやチャット機能などが充実しており、とても便利だと感じました。

また、ホスト側においてもプログラムの設定や参加者の管理などが容易にできるとのこと、極端な話、何百人もの参加者がある会議を一人で運営することができるようです。実際、今回の会議もIAPRIの事務局長が殆ど一人で切り盛りしておりました。我が国でもオンラインでの国際会議を主催する際には、活用される場面が拡大していくものと思われます。

### 4. 会議の内容

開催期間中は、IAPRIのワーキンググループ（研究部会）のミーティング（初日のみ）、基調講演、研究発表（口頭）、研究発表（ポスター）および、スポンサーのプロモーションなどが実施されました（2021年9月22日現在、こちら<https://iapri.org/program.php>からプログラムの閲覧が可能です）。

研究発表のカテゴリーは、Active & Intelligent Packaging（アクティブ・インテリジェント包装）、Distribution Packaging（輸送包装）、Logistics & Supply Chain（物流・サプライチェーン）、Packaging Design（包装デザイン）、Ergonomics & Human Factors（人間工学）、Packaging for Food & Agriculture（食品・農産物包装）、Packaging

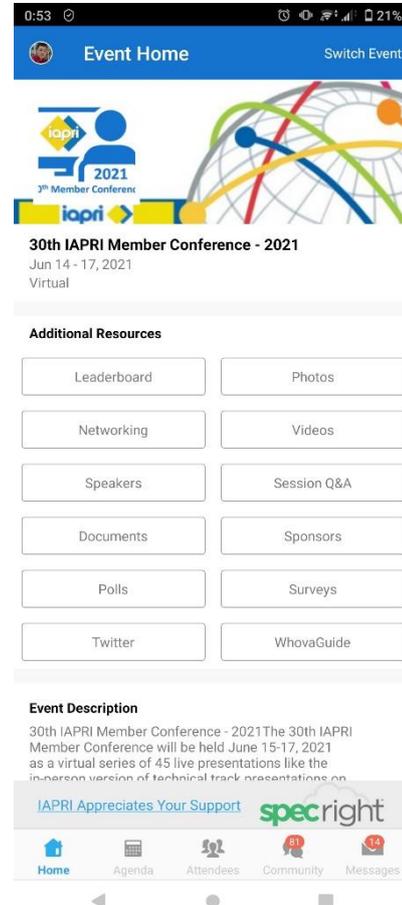


写真. スマートフォン用 Whova アプリで開いた会議のトップページ



for Hazardous & Dangerous Goods (危険物包装)、Packaging Materials (包装材料) および Packaging Sustainability (サステナビリティ) の8つに分かれておりました。発表数は、それぞれ順に3、10、5、6、3、1、12 および5であり、輸送包装と包装材料に関する発表が多い傾向にありました。

輸送包装および物流・サプライチェーンの発表カテゴリーでは輸送工程における振動解析に関する研究が散見され、特にミシガン州立大学の Patrick McDavid 氏による「Measurement and analysis of inflight vibration levels for air transport (航空輸送のための飛行中の振動レベルの測定と解析)」は、これまでにありそうでなかった内容だったこともあり印象に残りました。その他、包装材料では、Danish Technological Institute (デンマーク工業技術研究所と訳す?) の Yukihiro Kusano 氏が「High-speed plasma treatment of polyethylene terephthalate films using ultrasound assisted dielectric barrier discharge (超音波補助誘電体バリア放電を使用したポリエチレンテレフタレートフィルム的高速プラズマ処理)」と題し、プラズマ処理によるPETフィルムの表面加工に関する研究について発表されておりました。海外の機関で包装関連の研究を行う日本人と出会ったこともあり、発表内容は勿論、こちらも深く印象に残りました。一方、時差のせいか日本国内からの発表者はなく、その点に関しては少し残念でした。

また会議中、懇親会の代わりに参加者同士の交流を図るための時間が設けられました。具体的には、最大5人の参加者がランダムに選ばれバーチャルのテーブルに着き、お互いに挨拶や自己紹介、あるいは自由に会話をした後、5分経過すれば、メンバーが自動的にシャッフルされ、再び自己紹介なりを繰り返すといったものでした。何度も同じ参加者と顔を合わせたり、これまでに何度かあったことのある人と会ったりもしましたが、なかなか面白い試みだと思いました。国内の学会などでも同じような設定があると良いと思います。もっとも、時間は5分よりは長く設定した方が良さそうです。

## 5. おわりに

コロナ禍が収束した後も「新しい生活様式」の一環として、オンラインでのバーチャル会議は減ることなく、むしろ増えていくような気配を感じます。自宅から参加でき、開催地までの往復の時間とお金がかからないといった便利さを体験してしまうと、従来の会議のやり方に戻ることはなかなか難しそうです。もし、従来通りの学会大会やシンポジウムを主催する立場になった場合、実際に人と人が対面する形式で開催することの必要性と意義を十分に固めてから臨む必要があるということを考えさせられました。



さて、来年はタイ包装研究所 (Thai Packaging Centre) がホストとなり、カンファレンスが開催されます。現時点では、やはりオンラインでの開催となる可能性が濃厚ですが、その場合、自宅からの参加が可能ですし、参加資格は IAPRI の会員に限定されませんので、積極的なご参加を私からもお願いしたいと思います。

詳細につきましては、IAPRI のホームページ <https://www.iapri.org/> 上で随時案内されますので、是非ご確認下さい。